

北川水系河川整備計画に基づく 事業等の進捗点検について

進捗点検個表(案)

国土交通省 近畿地方整備局
福井河川国道事務所

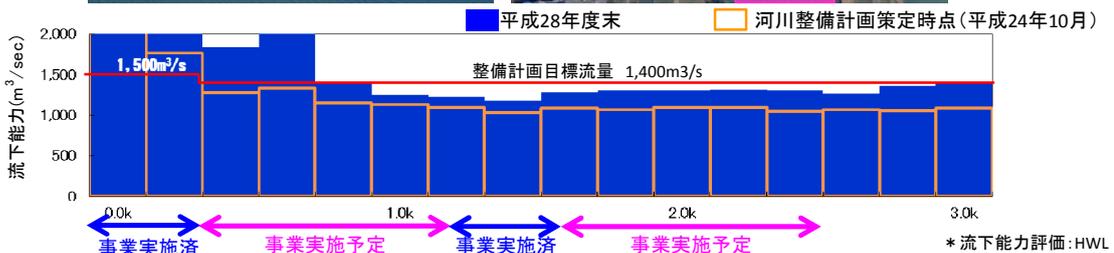
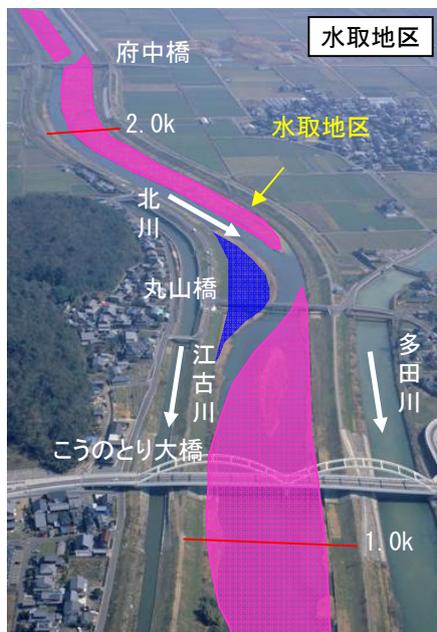
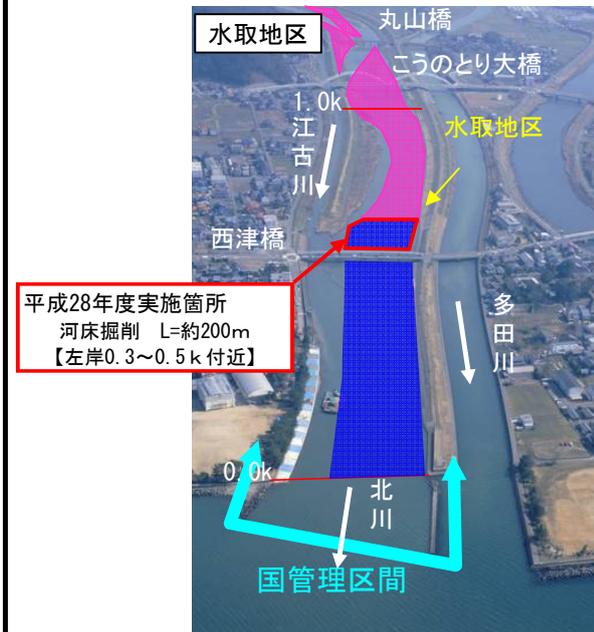
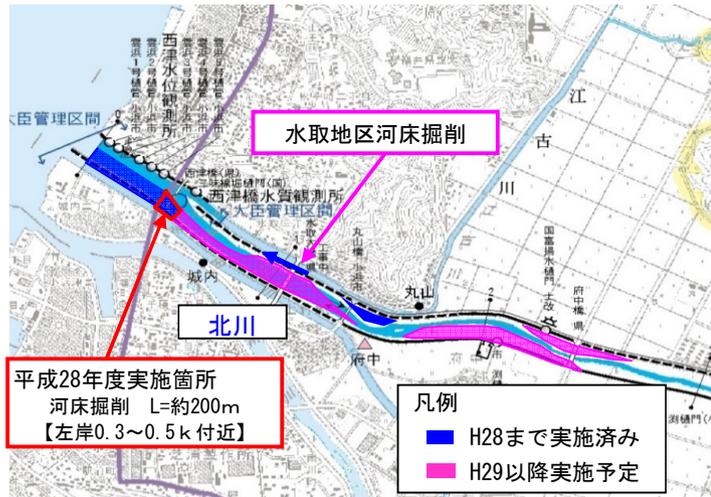
第3回流域懇談会（案）

北川水系事業進捗点検個表 目次

河川の整備の実施に関する事項	項目	No	個別の項目	備考
4.1 河川工事の目的、種類および施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設等の機能の概要	4.1.1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	1	水取地区河床掘削	抽出審議
		2	高塚地区河床掘削	
		3	府中頭首工改築	
		4	遠敷川合流点上流部の堤防拡築	
		5	遠敷川合流点下流部の堤防拡築	
		6	遠敷川合流点上流部の堤防強化	
		7	遠敷川合流点下流部の堤防強化	
		8	侵食対策	
		9	地震対策	
		10	霞堤の保全	
4.2 河川の維持の目的、種類及び施工の場所	4.1.2 河川環境の場の整備と保全に関する事項	11	動植物の生息・生育・繁殖環境の保全	
		12	生物移動の連続性の確保	
	4.2.1 河川管理施設等の機能維持	13	維持管理計画の策定	
		14	維持管理実施計画の策定	
		15	河川カルテの更新	
		16	河川巡視の実施	
		17	堤防、護岸等の維持管理の実施	抽出審議
		18	河川構造物等の維持管理の実施	抽出審議
		19	許可工作物の維持管理の実施	
		4.2.2 河川区域の管理	20	樹木管理の実施
21			河道管理の実施	
22			不法投棄の防止	
4.2.3 河川空間の利用	23	河川空間の適正な利用の促進		
	4.2.4 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	24	河川水の利用の調整	
		25	流水の正常な機能の維持	
		26	渇水時の対応	
		27	水環境(水質)の保全	
4.2.5 河川環境に関する事項	28	外来種対応の実施	抽出審議	
	29	河川景観の保全		
4.2.6 危機管理に関する事項	30	危機管理に関する事項	抽出審議	
	31	住民への情報提供		
4.3 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項	4.3.1 河川に関する学習	32	河川に関する学習	抽出審議
	4.3.2 河川工事における配慮	33	河川工事における配慮	
	4.3.3 モニタリング	34	モニタリング	
	4.3.4 地域住民、関係機関との連携	35	地域住民、関係機関との連携	

事業進捗点検	No001	整備計画本文との対応 (ページ)		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-4	P4-1~P4-3		
項目	4. 1. 1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減 (1) 洪水を安全に流す取り組み 整備箇所：①水取地区				
内容	整備メニュー：河床掘削				
指標	・ 施工延長 (m)				
点検方法	・ 整備進捗率 (%) = 施工済延長 (m) / 計画延長 (m) × 100				

進捗状況	
【点検結果】	<ul style="list-style-type: none"> 河床掘削施工延長進捗率 = 900 (m) / 2600 (m) × 100 = 34.6 (%) 【H28年度末時点】
【整備メニュー】	<ul style="list-style-type: none"> 河床掘削：2,600m
【備考】	<p>【点検結果の考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 掘削土砂に含まれる汚泥が想定以上に多く、処分費が高くなっている。 再利用できる土砂については小浜市が実施する建設事業で活用するなどコスト削減を図っている。(H28年度 約12,100m³)

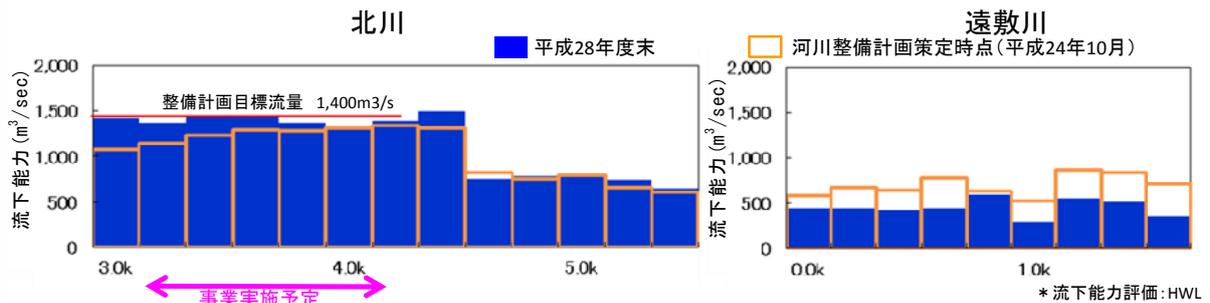
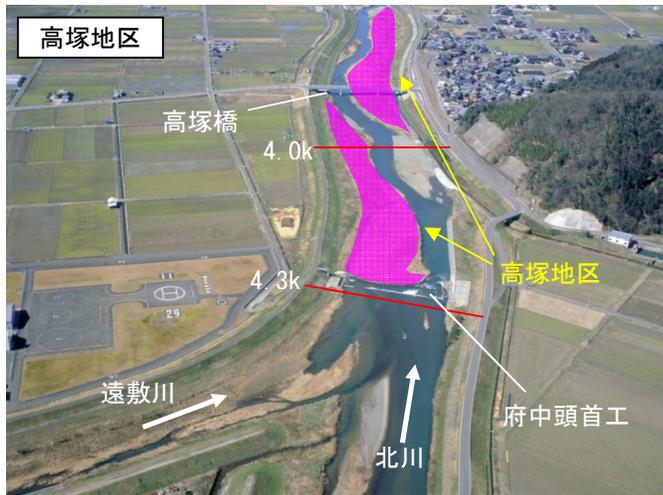


洪水等による災害の発生防止・軽減に関する計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
水取地区河床掘削											
整備計画策定時の工程											
現段階での工程	50m	250m	100m	300m	200m						

* 表内延長は実施延長
凡例: 整備計画策定時の工程 事業実施済 事業実施予定

事業進捗点検	No002	整備計画本文との対応（ページ）		整備 目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標 に関する事項	河川の整備の実施 に関する事項		
		P3-4	P4-1, P4-4	H35	毎年
項目	4. 1. 1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減 (1) 洪水を安全に流す取り組み 整備箇所：②高塚地区				
内容	整備メニュー：河床掘削				
指標	・ 施工延長 (m)				
点検方法	・ 整備進捗率 (%) = 施工済延長 (m) / 計画延長 (m) × 100				

進捗状況	
<p>【点検結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未着手。 ・ 計画延長（河床掘削） 高塚地区：1,000m <p>【備考】</p> <p>【点検結果の考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備計画に基づき、下流より掘削している。現在事業中の水取地区の河床掘削が完了後、着手する予定。 	

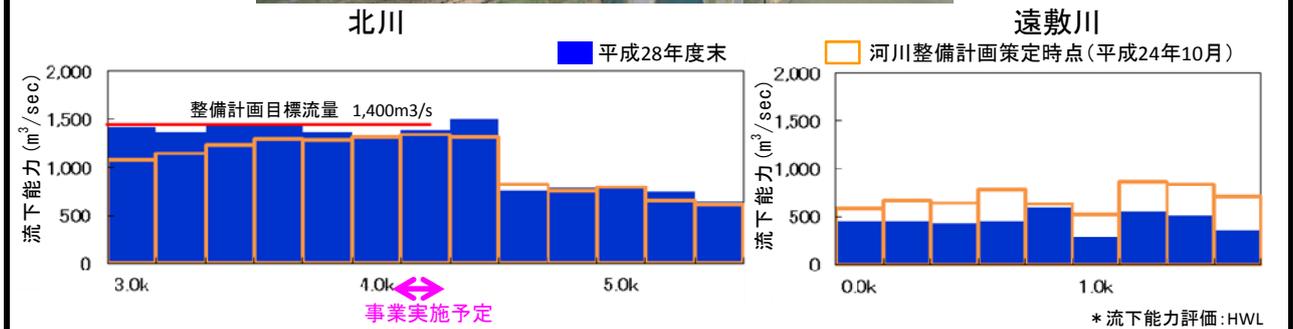
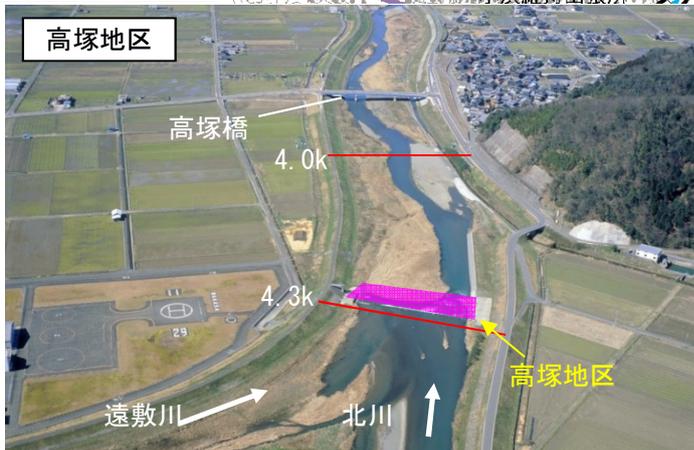


洪水等による災害の発生防止・軽減に関する計画		H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
高塚地区河床掘削	整備計画策定時の工程											
	現段階での工程											

凡例： 整備計画策定時の工程 事業実施済 事業実施予定

事業進捗点検	No003	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-4	P4-1		
項目	4. 1. 1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減 (1) 洪水を安全に流す取り組み 整備箇所：②高塚地区				
内容	整備メニュー：水位低下方策の実施（府中頭首工）				
指標	・ 事業費(億円)				
点検方法	・ 事業費進捗率 (%)				

進捗状況	
【点検結果】 ・ 未着手。 ・ 計画延長（府中頭首工）	
【備考】 【点検結果の考察】 ・ 高塚地区の河床掘削後の事業着手に向け、水位低減方策の検討を進める。	

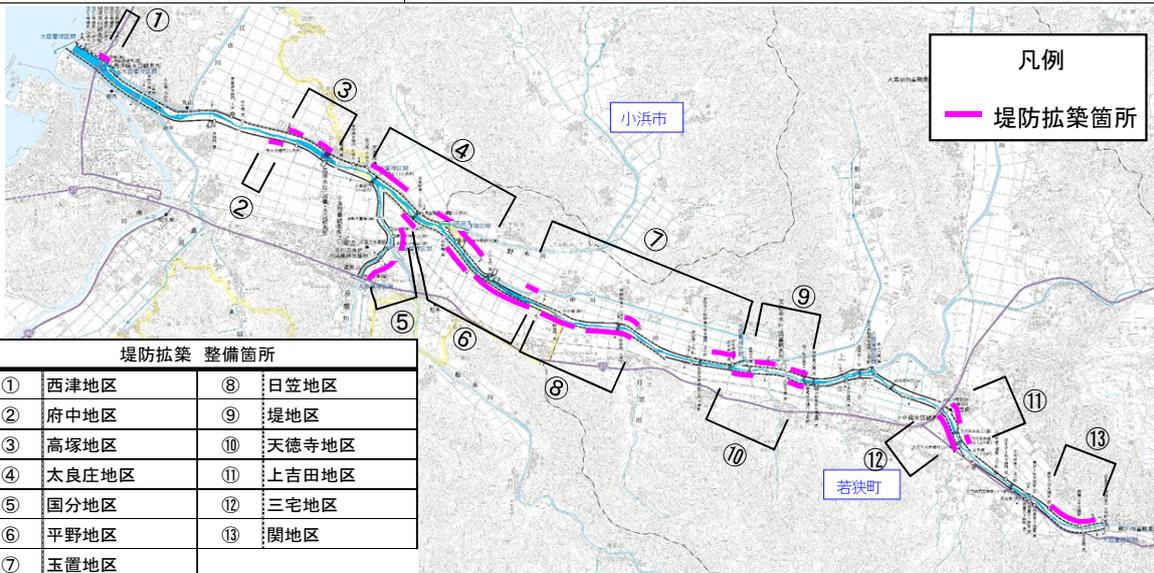


洪水等による災害の発生防止・軽減に関する計画	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
水位低減方策（府中頭首工）	整備計画策定時の工程										
	現段階での工程										

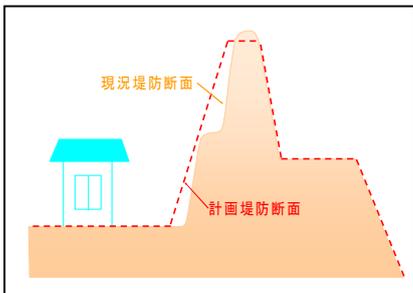
凡例： 整備計画策定時の工程 事業実施済 事業実施予定

事業進捗点検	No004-005	整備計画本文との対応 (ページ)		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-4	P4-5~P4-6	H49	毎年
項目	4. 1. 1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減 (2) 堤防の安全性の確保 (堤防断面形状確保)				
内容	堤防断面形状確保 (堤防拡築)				
指標	・ 施工延長 (m)				
点検方法	・ 整備進捗率 (%) = 施工済延長 (m) / 計画延長 (m) × 100				

進捗状況	
【点検結果】 ・ 未着手。 ・ 計画延長 堤防拡築：約8,200m (平成28年度末時点)	【備考】 【点検結果の考察】 ・ 堤防の安全性の確保は、本川の掘削を優先しつつもその進捗状況を踏まえながら実施していく。



堤防断面形状確保(堤防拡築)のイメージ



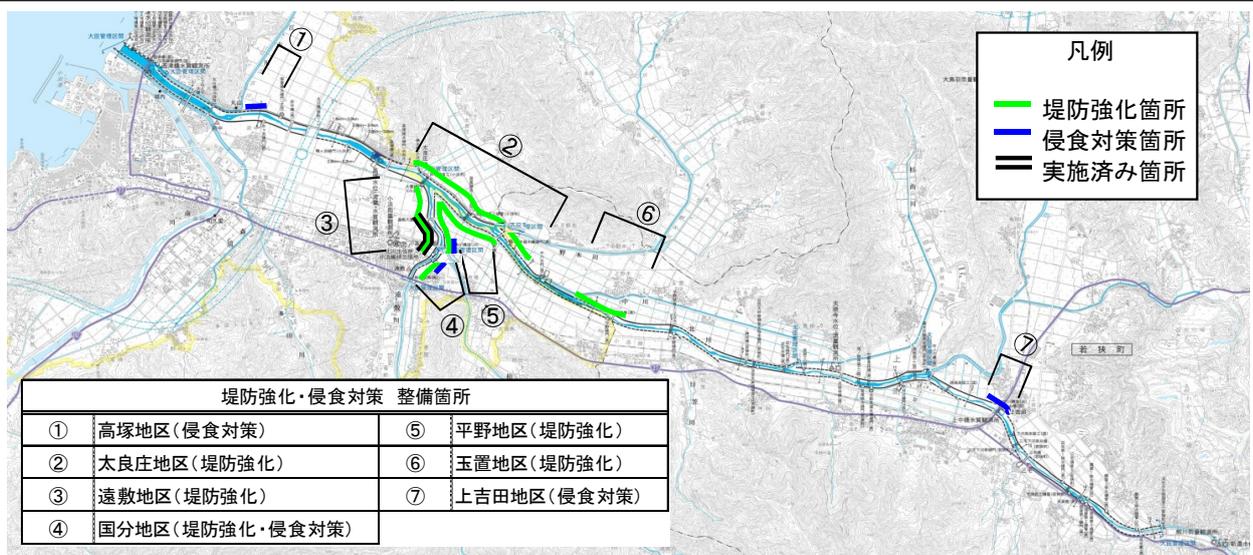
本来堤防が有すべき計画の断面積 (高さ・幅含む) を満足していない堤防について、盛土等を施し、計画断面を築造する。

洪水等による災害の発生防止・軽減に関する計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49	H50	H51	
堤防拡築	整備計画策定時の工程																												
	現段階での工程																												

凡例: ■ 整備計画策定時の工程 ■ 事業実施済 ■ 事業実施予定

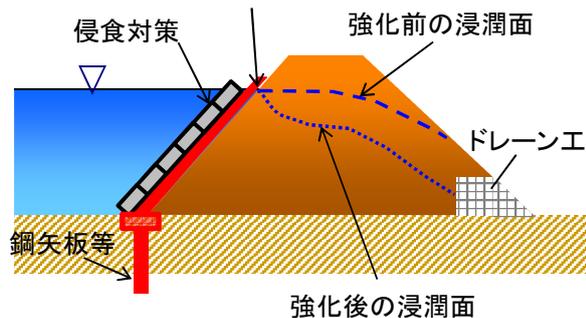
事業進捗点検	No006-008	整備計画本文との対応 (ページ)		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-4	P4-5~P4-6	H48	毎年
項目	4. 1. 1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減 (2) 堤防の安全性の確保(堤防安全性確保)、(侵食対策)				
内容	堤防安全性確保 (堤防強化) 侵食対策				
指標	・ 施工延長 (m)				
点検方法	・ 整備進捗率 (%) = 施工済延長 (m) / 計画延長 (m) × 100				

進捗状況	
【点検結果】 ・ 堤防強化施工延長進捗率 $= 400 (m) / \text{約} 6300 (m) \times 100 = 6.4 (\%)$ ・ 計画延長 堤防強化：約 6,300m 侵食対策：約 1,000m (平成28年度末時点)	【備考】 ・ 堤防強化については、「河川堤防の浸透に対する照査・設計のポイント」に基づき、平成26年度に照査を実施し、整備区間として約 5,200m抽出した。 【点検結果の考察】 ・ 堤防の安全性の確保は、本川の掘削を優先しつつもその進捗状況を踏まえながら実施していく。



堤防安全性確保 (堤防強化) のイメージ

被覆材料 (遮水シート等)



河川水の浸透による漏水やすべり崩壊などを原因とする堤防破壊に対するため、堤体内の水位低下を促すドレーン工等を設置し、堤防の安全性を向上させる。

洪水等による災害の発生防止・軽減に関する計画	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49	H50	H51
堤防強化・侵食対策	整備計画策定時の工程																											
	現段階での工程		400m		①、②、④、⑤、⑥地区										③、④、⑦地区													

凡例: 整備計画策定時の工程 (yellow) 事業実施済 (blue) 事業実施予定 (pink)

* 表内延長は実施延長

事業進捗点検	No009	整備計画本文との対応（ページ）		整備 目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標 に関する事項	河川の整備の実施 に関する事項		
		P3-5	P4-5～P4-6	H51まで 継続	毎年
項目	4. 1. 1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減 (2) 堤防の安全性の確保 (3) 地震対策				
内容	堤防、水門・樋門等の耐震点検と対策				
指標	・ 対策の実施状況				
点検方法	・ 対策施設数 (%) = 対策済施設数 / 対策必要施設数				

進捗状況																																		
<p>【点検結果】</p> <p>○堤防に関する耐震点検及び耐震対策の実施状況 ・現在、北川（遠敷川含む）の堤防耐震対策については河川構造物の耐震性能照査指針（案）・同解説（H19.3）に基づく点検を完了しているが、H23.3.11東日本大震災を踏まえた最新の知見や基準・マニュアルに基づいた点検については、北川河口部の津波高が未確定のため未実施である。</p> <p>今後については、海岸管理者が公表する津波高が確定次第、最新の知見や基準・マニュアルに基づき順次予算の範囲内で耐震性能（L2）の点検を実施し、必要に応じて対策を実施する。</p> <p>○河川構造物に関する耐震点検及び耐震対策の実施状況 ・水門・樋門：4箇所のうち、耐震点検実施済は0。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">名称</th> <th>耐震性能</th> <th colspan="2">耐震対策</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>照査済</th> <th>要対策</th> <th>対策済</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水門・樋門</td> <td>三味線堀樋門</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>市ヶ淵樋門</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>中川水門</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>平井川樋門</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>今後、耐震点検を実施し対策を進めていく。</p> <p>【点検結果の考察】</p> <p>現在堤防については、海岸管理者が設定する施設設計上の設計津波（L1津波高）及び総合的防災対策を構築する上で想定する津波（L2津波高）が未設定であることから、津波の河川遡上の設定が出来ず、耐震点検が未実施である。今後は海岸管理者とともにL1、L2津波高さの設定における基本事項をオーソライズさせ、L1、L2津波高さについて設定させる必要がある。</p> <p>尚、L2津波高さについては、『日本海における大規模地震に関する検討会の津波断層モデル（国土交通省・内閣府・文部科学省）』がH26.8に公表されたところである。</p> <p>※L1津波（防災レベル）：発生頻度は高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波 L2津波（減災レベル）：発生頻度は極めて低いものの、甚大な被害をもたらす最大クラスの津波 引用：中央防災会議 東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告（H23.9.28）による津波の分類より</p> <p>河川構造物については、優先順位を整理した上で実施する。</p>		種別	名称	耐震性能	耐震対策		備考	照査済	要対策	対策済	水門・樋門	三味線堀樋門						市ヶ淵樋門						中川水門						平井川樋門				
種別	名称			耐震性能	耐震対策			備考																										
		照査済	要対策	対策済																														
水門・樋門	三味線堀樋門																																	
	市ヶ淵樋門																																	
	中川水門																																	
	平井川樋門																																	

事業進捗点検	No010	整備計画本文との対応（ページ）		整備 目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標 に関する事項	河川の整備の実施 に関する事項		
		P3-4	P4-6	H51まで 継続	毎年
項目	4. 1. 1 洪水等による災害の発生の防止又は軽減 (4) 霞堤の保全				
内容	霞堤の保全（機能維持）				
指標	・霞堤の機能維持に関する施策の実施状況				
点検方法	・霞堤の機能維持に関する関係機関との調整や情報提供についての実施状況を確認				

進捗状況
<p>【点検結果】</p> <p>○霞堤 霞堤の効果については引き続き流域住民の理解を得るよう関係自治体と協力し、適切な土地利用の維持を図る。</p> <p>○江古川 江古川については、平成25年台風18号の後、管理者である福井県が検討している治水対策に対して必要となる情報（水文データなど）を提供するなど十分な調整・連携を行うなどして、支援を行っている。</p> <p>【点検結果の考察】 今後も引き続き福井県とは調整、連携を図り支援を行っていく。</p>

事業進捗点検	No011-012	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-7	P4-6～P4-8	H51まで継続	毎年
項目	4. 1. 2 河川環境の場の整備と保全 （1）動植物の生息・生育・繁殖環境				
内容	河床掘削にあたり掘削形状を工夫することにより下流部感潮域における水域浅場でのシロウオ、シラウオの産卵場や陸域でのヨシ帯・シオクグを保全。 平水位以下の掘削を行わないことにより府中頭首工下流域におけるアユやサケ等の魚類の生息環境を保全。また、低水敷等の河道整正により瀬・淵を創出。 横断工作物の落差解消（縦断的連続性の確保）のため、NP0、関係機関等と連携し、流域全体の物理的環境（水量や水質等）や上下流の連続性の実態を調査。施設管理者への魚道の設置・改善を指導。水路等の落差解消（水路等との連続性の確保）のため、NP0、関係機関等と連携し、水路等の物理的環境（水量や水質等）の実態を調査。施設管理者への魚道の設置、樋門・樋管の改築を指導。				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・シロウオ等の産卵場やヨシ帯・シオクグの保全状況 ・アユやサケ等の魚類生息環境の保全状況 ・横断工作物の落差解消に関する施策の実施状況 ・水路等の落差解消に関する施策の実施状況 				
点検方法	<ul style="list-style-type: none"> ・シロウオ等の産卵場やヨシ帯・シオクグの保全状況の確認 ・アユやサケ等の魚類生息環境の保全状況の確認 ・横断工作物の落差解消に関する施策の実施状況の確認 ・水路等の落差解消に関する施策の実施状況の確認 				

進捗状況

【点検結果】

1. 動植物の生息・生育・繁殖環境の保全

平成24～28年度に実施した河床掘削については、シラウオ、シロウオの産卵場やシオクグ、ヨシ原などに工事の影響が出ないように配慮し、これらが生育・生息・繁殖する場所から離れた箇所を実施した。

2. 生物移動の連続性の確保

平成26年度に、横断工作物の魚類遡上機能調査をおこなっており、魚道の破損や土砂堆積による魚道の機能低下を確認した。

河川管理者においても日々の河川巡視のなかで継続的に魚道の状態監視を行っているところである。

横断工作物の魚類遡上機能調査（平成26年度）

施設番号	施設名称	施設構造	距離標 (km)	魚道の位置	魚道の形式	本体評価 (魚類の遡上可否)	魚道評価 (魚類の遡上可否)	総合評価 (魚類の遡上可否)
1	府中頭首工	堰	4.3	右岸	斜路式	×	×	×
2	国富頭首工	堰	5.0	右岸	階段式	○	×	○
3	平野頭首工	堰	8.0	中央	階段式	△	×	△
4	日笠頭首工	堰	9.2	魚道無し		×	— 魚道無し	×
5	武生頭首工	堰	9.5	左岸	階段式	△	×	△
6	塔ノ下床固工	床固	9.9	全面	斜路式	○	△	○
7	成之部床固工	床固	10.4	左岸	斜路式	△	×	△
8	世野見井堰	堰	10.6	左岸	階段式	×	×	×
9	堤頭首工(堤床固工)	堰	11.8	右岸	斜路式	×	×	×
10	孫城床固工	床固	11.7	全面	斜路式	— 堤体自体が魚道	×	×
11	三宅下河原井堰	堰	13.0	右岸	階段式	×	×	×
12	三宅頭首工	堰	13.8	左岸	階段式	×	×	×

「機能している」:○、「機能低下の可能性がある」:△、「機能低下がみられる」:×

【点検結果の考察】

北川においては今後継続的に河川改修が実施されることから、動植物の生息・生育・繁殖環境の保全について検討、対策及びモニタリングを実施していくものとする。

また、必要に応じて住民や学識者等の意見やアドバイスを参考に事業に活かしていくものとする。

横断工作物、水路等の落差解消についても河川改修同様にNP0、関係機関、自治体とも連携し、実態を調査・把握し、住民や学識者等の意見を踏まえながら、適切に施設管理者へ改善指導を行うなど順応的に対応していく。

事業進捗点検	No013-015	整備計画本文との対応（ページ）		整備 目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標 に関する事項	河川の整備の実施 に関する事項		
		P3-9	P4-9	H51まで 継続	毎年
項目	4. 2 河川の維持の目的、種類及び施工の場所				
内容	概ね5年間に実施する具体的な維持管理の内容を定めた維持管理計画と、年間の具体的な実施内容を定めた実施計画を作成。河川の状態の変化及び維持補修の結果を河川カルテとしてとりまとめ、維持管理の状態を評価し、必要な措置を実施。				
指標	・維持管理の実施状況				
点検方法	・維持管理計画、実施計画の作成状況の確認 ・河川カルテへの記録状況の確認				

進捗状況

【点検結果】

- 維持管理計画の作成
平成18年より維持管理に必要な事項や時期のデータ収集を始め平成24年4月に北川維持管理計画（案）を策定し、福井河川国道事務所のHPにおいて公開している。
- 維持管理実施計画の作成
維持管理計画（案）に基づき、実施計画（川の安全・安心カレンダー）を、平成28年4月～平成29年3月の年間スケジュールとして策定している。
- 河川カルテの記録(H19～)
河川カルテ（平面図）には、基本情報として次に示す事項を記録している。
 ①工事履歴
 ②被災履歴
 ③河道の変動状況
 ④水衝部の発生位置
 ⑤洗掘の状況
 ⑥堤防の異常、変状（亀裂・漏水等）
 ⑦施設本体及び周辺の異常
 ⑧不法行為
 また、カルテには、対応状況を記録している。
 カルテの作成、更新の状況を以下に示す。

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
累積延件数	85	103	103	122	139	175	242	313	447	703
年度新規件数	18	0	19	17	36	67	71	16	134	210
対応済件数	3	0	11	11	9	3	6	10	84	132

【点検結果の考察】

河川カルテによる優先度を総合的にランク分けし、緊急度の高いものから実施。

河川カルテ		河川カルテ							備考	
年月日	発生場所	内容	記録内容	記録方法	記入者	記録年月日	実施した建設、工事名及び工期	記録後の状況	記入者	
2024.6.17	カニマツの敷地	洗掘	洗掘箇所	写真	赤井	2024.2	若狭町農業改善後継工事で対応		赤井	
2025.9.18	北川	高水時の河床洗掘	高水時の河床洗掘	写真	赤井	2025.9.18	高水時の河床洗掘		赤井	

事業進捗点検	No016	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-9	P4-9	H51まで継続	毎年
項目	4. 2. 1 河川管理施設等の機能維持 (1) 河川管理施設の状態の把握				
内容	河川を良好に維持管理するため、河川巡視により日常的に状況を把握。施設を良好な状態に保つため、必要な点検を実施。				
指標	・ 河川巡視と施設点検の実施状況				
点検方法	・ 巡視状況と点検状況の確認				

進捗状況

【点検結果】

河川管理施設の状態を把握することを目的として、以下に示す区間に対して巡視を実施。

対象河川	堤防延長
北川	15.2km
遠敷川	1.3km

河川巡視として平常時巡視を、平成28年度は102日（2巡/週）、出水時、災害・事故発生時の緊急時巡視を1回を基本として実施。（平成23年度及び平成25年度は台風出水による出水時巡視を実施。）

河川管理施設詳細点検として、出水期前後に目的別巡視を2回実施。（目的別巡視とは、堤防や樋門といった個別の箇所限定した箇所を徒歩により点検）

結果については、河川カルテに記録。

平成24年度からは国管理河川においては職員が徒歩で堤防を点検する通知が発出され、北川においても実施。



市ヶ渚樋門

樋門点検の実施状況（H28.5.26 点検）



河川巡視の実施状況

【点検結果の考察】

河川管理施設点検（堤防点検含む）結果は、早急に対応するものは確認されなかった。今後も点検を実施し、平時より河川カルテに記録することにより変状の把握に努める。

事業進捗点検	No017	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
			P3-9	P4-9	H51まで継続
項目	4. 2. 1 河川管理施設等の機能維持 （2）堤防、護岸等の維持管理				
内容	堤防天端及び堤防法面の補修。護岸の補修、根固工等による洗掘対策などの実施。				
指標	・堤防、護岸等の維持管理状況				
点検方法	・維持管理状況の確認				

進捗状況

【点検結果】

- 堤防の補修実績
点検の結果、H28年度は補修箇所は無かった。
- 護岸の補修実績、洗掘対策等の実績
H28年度に北川左岸14.3K付近の護岸補修を実施。
- 工事実施時の環境配慮事項
鮎のシーズンをはずして川の中の工事は、11月以降に実施。
緊急を要する工事についても掘削を減らし極力濁りを出さない方法で工事を実施。
- 堤防除草の実施状況、その際の安全確保やコスト削減の取り組み
 - 堤防除草の実施状況
年間2回の除草を実施。
実施：北川 1,150km²/2回・年
 - 堤防除草の際の安全確保
作業受注者に対して契約図書等で安全配慮項目を記載するとともに、現場条件に即した安全管理の徹底を指導。
 - コスト削減の取り組み
H28年度においては、刈草を地域と協働して堆肥化することで処分費用の削減を実施（130万円の削減）。
- 占用区域内の除草指導などの状況
占用許可時に許可条件として申請書に明記するとともに、北川出張所より占有者に指導。
- 除草廃棄物のコスト削減の取り組み
上記、4. 3) を参照のこと。

【点検結果の考察】

コスト削減の取り組みとして、試験的に刈草を嶺南牧場に運搬を実施したが、石等の不純物が多く飼料として適さないとの指摘もあり、H27年度においては、試験的に刈草の堆肥化による処分費用の削減に取り組み、約3%のコスト削減効果があり、今後も継続して実施する。



平成28年11月6日堆肥無償配布状況

事業進捗点検	No018	整備計画本文との対応（ページ）		整備 目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標 に関する事項	河川の整備の実施 に関する事項		
		P3-9	P4-9	H51まで 継続	毎年
項目	4. 2. 1 河川管理施設等の機能維持 (3) 河川構造物等の維持管理				
内容	水門、樋門・樋管等の適切な維持管理の実施。機械設備等は作動可能な状態を保持するため、定期的な点検や必要な維持修繕の実施。施設操作の確実性の向上。				
指標	・河川管理施設の維持管理の実施状況				
点検方法	・点検、整備による状態評価や、それに基づく施設の補修等の状況 ・操作の確実性を向上させるための施策の状況				

進捗状況	
<p>【点検結果】</p> <p>1. 水門、樋門・樋管等の維持管理</p> <p>対象施設に関して、水門・樋門（4施設：三味線堀樋門、市ヶ渚樋門、中川水門、平井川樋門）点検は毎月1回、年点検を1回実施。以下に示す箇所において、機材の取替や分解整備を平成22年度に実施済。平成23～28年度は、点検の結果特に異常はなかった。</p> <p>①：三味線堀樋門 ゲート履体取替（平成22年度）</p>	
	
実施前	ゲート腐食部
	
実施後	
<p>【点検結果の考察】</p> <p>長寿命化計画を策定して計画的に更新を行う予定としており、今後、点検の結果に基づき、計画的更新と併せて、施設更新及び必要な補修を進めて行く。</p>	

事業進捗点検	No019	整備計画本文との対応（ページ）		整備 目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標 に関する事項	河川の整備の実施 に関する事項		
		P3-9	P4-10	H51まで 継続	毎年
項目	4. 2. 1 河川管理施設等の機能維持 （4）許可工作物				
内容	定められた許可条件に基づき適正に管理されるよう施設管理者に指導。				
指標	・ 許可工作物の維持管理に関する指導の状況				
点検方法	・ 点検や対策の指導状況 ・ 改善措置の指導状況				

進捗状況

【点検結果】

1. 許可工作物の維持管理
許可工作物の維持管理については、毎年1回、出水期前に施設点検を指示している。

施設の点検状況



瓜生第一排水樋門（H27. 4. 28 点検）



三宅下河原井堰（H27. 4. 28 点検）

2. 河川法不適合施設の改善指導
平成27年度の点検結果において、改善処置の実施に該当した施設はない。
なお、許可申請の更新時においては、遊休施設の改善指導（年間約2件：下河原樋管・向河原樋管）を行っている。

【点検結果の考察】

引き続き適切な指導を続けていく。

事業進捗点検	No020	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
			P3-9	P4-10	H51まで 継続
項目	4. 2. 2 河川区域の管理 （1）樹木の伐採と管理				
内容	河道内の樹木の成長や繁茂の状況などについて、調査を実施。関係者と協議しながら適正な対策を検討し、河川環境の保全・回復に配慮しつつ伐採を実施。発生する草木等の処理方法については、コスト縮減を図る。				
指標	・ 樹木の伐採と管理の実施状況				
点検方法	・ 樹木の伐採と管理の実施状況の確認				

進捗状況

【点検結果】

H28年度において、約5,600m²の伐採を実施。H25～27年度は伐採実績なし。

実施前（H28年度）



北川左岸2.1k付近～2.4k（府中橋下流）



実施後（H28年度）



北川左岸2.1k付近～2.4k（府中橋下流）

【点検結果の考察】

限られた予算の中で地域の要望だけで実施することは難しい中、流下能力が不足している箇所を優先的に実施する。なお、野鳥の会等環境保護団体の了承が得られた箇所を実施する。実施に当たり、地域との協働を念頭とする。

事業進捗点検	No021	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
				P3-9	P4-10
項目	4. 2. 2 河川区域の管理 （2）河道の管理				
内容	河道の変動状況及び傾向を把握し、堆積土砂等が河川管理上の支障となる場合や現状の保全・回復のため必要な場合は維持掘削などを実施。総合的な土砂管理の観点から、河床材料や河床高等の経年的な変化だけでなく、土砂の生産源、生産量、州を形成している土砂の粒径の把握等により土砂の挙動について調査。				
指標	<ul style="list-style-type: none"> 河道内堆積土砂の把握と維持掘削の実施状況 土砂の挙動に関する調査の実施状況 				
点検方法	<ul style="list-style-type: none"> 河道内堆積土砂の把握と維持掘削の実施状況の確認 土砂の挙動に関する調査の実施状況の確認 				

進捗状況

【点検結果】
H22年度に土砂の挙動に関する将来予測を実施。河口部（0～1.4K）で土砂堆積の発生が懸念される結果となった。
H23年台風2号出水で、平井川樋門の施設周辺に土砂が堆積したため、維持掘削（約300m³）を実施。
H25年台風18号により堆積した土砂の維持掘削をH25年度に約1,500m³、H26年度に12,300m³実施、H27年度に12,300m³実施、平成28年度に9,500m³実施。

【H26】土砂掘削
高塚地区3.6k～4.3k
V=12,300m³

【H27】維持掘削
国富地区5.2k～5.6k
V=12,300m³

【H28】維持掘削
井ノ口地区10.8k～11.4k
V=9,500m³

凡 例

茶 H26施工済箇所

青 H27実施済箇所

赤 H28実施済箇所

国富地区（H27年度）

施工前
施工後

井ノ口地区（H28年度）

施工前
施工後

【点検結果の考察】
堆積土砂の搬出先の確保が課題となる中、関係市、町へ土捨て場の確保をお願いし処分費用の縮減に努めている。
土砂動態予測結果を踏まえ、河道状況のモニタリングを実施し、適切に維持管理に努める。

事業進捗点検	No022-023	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
				P3-9～P3-10	P4-10～P4-11
項目	4. 2. 2 河川区域の管理 (3) 不法投棄の防止 4. 2. 3 河川空間の利用 (1) 河川空間の占用 (2) 河川環境を損なう利用の是正				
内容	巡視により不法投棄を監視・防止。塵埃処理を行い、減量化に向け地域住民や関係団体と連携。啓発活動を実施。 河川利用及び安全確保のあり方の情報提供や啓発活動を実施。 河川愛護・美化思想や河川利用に対するモラルを啓発。迷惑行為啓発活動実施計画や違法行為是正実施計画の作成。				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の防止の実施状況 ・河川空間の占用に関する情報提供や啓発活動の実施状況 ・河川環境を損なう利用の是正状況 				
点検方法	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の監視、防止に関する実施状況の確認 ・河川空間の占用に関する情報提供や啓発活動の状況の確認 ・河川環境を損なう利用の是正状況の確認 				

進捗状況	
<p>【点検結果】</p> <p>1. 河川巡視の実施 河川巡視については、週2巡の行程で実施。</p> <p>2. 美化・清掃活動の継続的な実施と支援・啓発活動の実施 九頭竜川・北川水系水質汚濁防止連絡協議会に、H23年度より河川愛護部会を設置し、ゴミ問題について取り組んでおり、H28年4月には、ゴミ袋を作成し地域住民に配布すると共に、軍手の提供やゴミばさみの貸与等を実施。（約80人参加）</p> <p>3. 河川空間の利用に関する情報提供 河川占用にかかる事前相談や協議に際し、河川の適正利用及び安全確保等に関する情報提供や指導を実施。</p> <p>4. 河川愛護月間における啓発活動 河川愛護月間には、河川の安全かつ適切な利用、良好な河川環境の保全・再生への取り組みの推進、河川愛護意識の醸成を目的に、河川愛護標語の展示・表彰、懸垂幕、ポスターの掲示等を行っている。</p> <p>5. 河川環境を損なう利用状況の是正 河川環境を大きく損なうような迷惑行為や違法行為等は特に見られないが、投棄ゴミや不法係留等に対してはその都度適切な措置を行っている。</p>	 <p>自転車による巡視 (直営巡視)</p>  <p>巡視車両による巡視</p>  <p>河川愛護月間の懸垂幕</p>  <p>河川愛護月間のポスター</p>
<p>【点検結果の考察】 河川利用のモラル向上、迷惑・違法行為の防止を目的に、河川愛護月間等の機会を利用し、関係機関等（NPO、沿川住民等）との連携・協力を図っている。より効果的な行事の実施について、引き続き検討していく。</p>	

事業進捗点検	No024-026	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-6	P4-11	H51まで継続	毎年
項目	4. 2. 4 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持 (1) 河川水の利用 (2) 流水の正常な機能の維持 (3) 渇水時の対応				
内容	水利権の更新や変更に際する適正な水利権許可。新たな水利用に対する適正かつ多様な水利用の確保。合理的な水利用並びに河川環境の保全等について意見交換を実施。流水の正常な機能を維持するため、関係者との調整により水資源を有効利用。渇水時の危機管理対策を円滑に行うため、渇水対策を強化、水利用を調整。				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・河川水の利用の調整状況 ・水不足の発生状況 				
点検方法	<ul style="list-style-type: none"> ・調整状況の確認 ・水不足の発生状況の確認 				

進捗状況	
<p>【点検結果】</p> <p>1. 水利権許可の件数、内容（新規、慣行水利権の法定化）</p> <p>1) 新規 H24年度以降、該当案件無し。</p> <p>2) 慣行水利権の法定化 H24年度以降、該当案件無し。 (慣行水利権無し)</p> <p>2. 水利用、河川環境等に関する情報共有及び相互理解を図るため水利用情報交換会を開催 (平成11年度に設立後、年1回開催し、H28まで合計18回開催) 平成28年6月10日(金)に開催した第18回北川水系水利用情報交換会においては、水利用、水質・水文状況等の報告とあわせ、今後本会議を渇水調整の場として活用していくことについて確認を行った。 なお、本会議は、上(工)水事業者、電力会社、土地改良区等からなる利水者と河川管理者とで構成されている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">水利用情報交換会の開催状況</p> <p style="text-align: right;">平成28年6月10日(金) 第18回北川水系水利用情報交換会</p> <p>3. 発電取水による減水区間に対する調整の状況 該当なし。(H24~28年度の発電水利の許可実績がないため)</p> <p>【点検結果の考察】 水利用情報交換会は、合理的な水利用及び河川環境の保全等のために情報共有や意見交換を行う場として、今後も有効に活用していく必要があり、特に、渇水調整の場としての機能を具体化させるための枠組み作りに向けて取り組んでいく。</p>	

事業進捗点検	No027	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-8	P4-12	H51まで継続	毎年
項目	4. 2. 4 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持（4）水環境（水質）				
内容	「九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会」による実態把握と防止対策の実施。水質事故対応への関係機関の連携強化、事故処理の訓練、事故発生時の迅速な対応、水質事故防止に向けた啓発の実施。				
指標	<ul style="list-style-type: none"> 水環境に関する施策の実施状況 水質の経年変化 				
点検方法	<ul style="list-style-type: none"> 水環境に関する施策の実施、調整状況の確認 水質の経年変化の確認 				

進捗状況

【点検結果】

1. 水質保全に向けた取り組み

1) 九頭竜川・北川水系河川水質汚濁防止連絡協議会の実施状況

委員会、幹事会を毎年1回開催（H29.1.25開催）

公共用水域の水質測定結果、特定事業所での水質検査結果、水質事故発生状況等について情報共有するとともに、水質事故防止に向けた啓発活動推進を確認。

2) 水質事故の発生状況

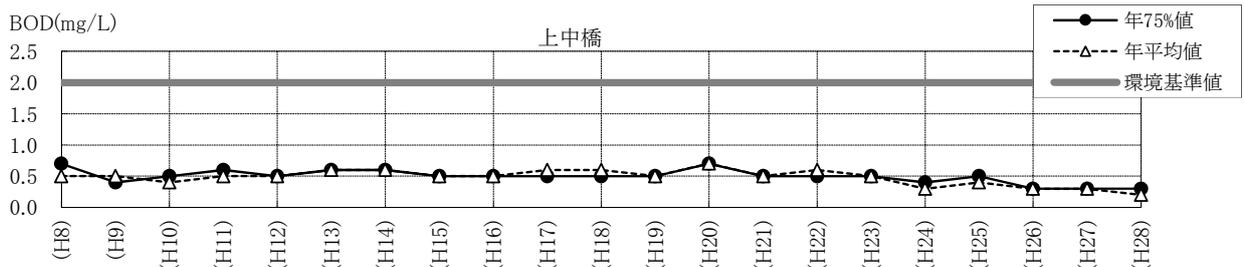
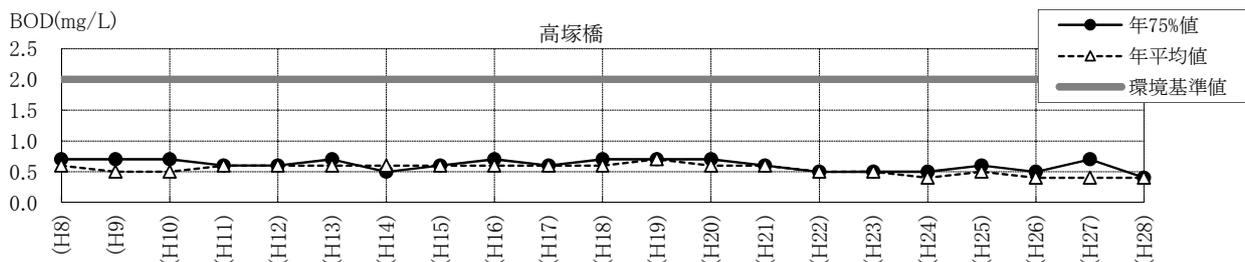
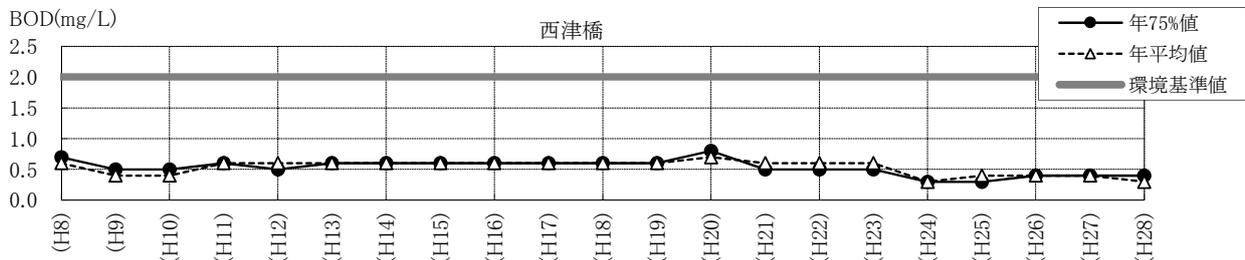
北川水系では平成28年は水質事故発生は油流出事故が1件発生しました。

（平成25年は1件、平成26年は1件、平成27年は0件）

事故対応においては、関係機関との連携により適切な情報連絡及び対策を実施していきます。

2. 水質の経年変化

北川高塚地点（A類型 BOD2.0mg/L以下）での水質測定結果によると、平成26年のBOD75%値は0.5mg/l、平成27年のBOD75%値は0.7mg/l、平成28年のBOD75%値は0.4mg/lであり、環境基準値以下を維持している。



【点検結果の考察】

水質事故対応においては、引き続き関係機関と連携し実施するとともに、水質事故防止に向けた啓発活動を推進していく。

事業進捗点検	No028-029	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-7	P4-12～P4-13	H51まで継続	毎年
項目	4. 2. 5 河川環境に関する事項 (1) 外来種 (2) 河川景観				
内容	外来種の実態把握と監視。河川景観の保全。				
指標	・ 外来種の把握と監視状況 ・ 河川景観の保全状況				
点検方法	・ 外来種の把握と監視状況の確認 ・ 河川景観の保全状況の確認				

進捗状況

【点検結果】

1. 外来種

生物の生育・生息環境に関する調査として、河川水辺の国勢調査を実施している。H22年度以降の調査結果より、確認種、重要種、外来種についてまとめると、下表のようになる。ただし、H26年度以降の調査結果については暫定値。（出典：河川環境データベースHP【確定値】）

実施年度	内容	確認種	重要種	特定外来種	調査地区数	備考
H22	河川環境基図作成調査	101	2	2	北川11・遠敷川0	確定値
H24	鳥類調査	77	8	0	北川29・遠敷川3	確定値
	植物調査	382	10	4	北川2・遠敷川0	確定値
H25	底生動物調査	274	3	0	北川4・遠敷川1	確定値
H26	魚類調査	66	18	0	北川5・遠敷川1	確定値
H27	河川環境基図作成調査	93	2	4	北川5・遠敷川4	暫定値
H28	陸上昆虫類等調査	732	5	0	北川2・遠敷川1	暫定値

また、河川水辺の国勢調査による外来種の経年変化（過去3回）は以下の通りである。

調査項目	【調査年度】 外来種、()内は特定外来種				主な特定外来種		
魚類	【H26】	2(0)	【H21】	2(1)	【H17】	1(0)	オオクチバス
底生動物調査	【H25】	3(0)	【H20】	3(0)	【H17】	3(0)	
植物調査	【H24】	31(4)	【H16】	90(2)	【H11】	77(1)	アレチウリ・オオキンケイギク
鳥類調査	【H24】	1(0)	【H15】	1(0)	【H10】	1(0)	
両生類・爬虫類・ほ乳類	【H19】	0・1・4(0・0・2)	【H14】	0・0・1(0・0・0)	【H9】	0・0・3(0・0・1)	ヌートリア・アライグマ
陸上昆虫類等	【H18】	11(0)	【H13】	7(0)	【H8】	7(0)	

住民への呼びかけとして、沿川市町と協力しチラシの各戸配布や地元ケーブルテレビによる周知を実施。

平成24年度から、北川管内で確認された特定外来種である「オオキンケイギク」について、巡視による監視を継続実施し、抜き取り駆除を継続実施するなど、防除（駆除）に努めている。

2. 河川景観

平成27年度の河川環境基図作成調査による早瀬及び淵の箇所数は、それぞれ74箇所、7箇所を確認。

【点検結果の考察】

外来種については今後も河川巡視により確認するとともに、地域住民や関係機関と協力・連携し防除（駆除）に努めていくものとする。

河川景観については、瀬と淵の状況を水辺の国勢調査で継続して調査を行う。



オオキンケイギク です。

特徴

花
○開花期
○5～7月頃咲く
○直径5cm～7cm

全体
○高さ30cm～70cm
○多年生

葉
○下のほうについている
○葉裏に白い毛がある

よけていがないせいだけ
これは**特定外来生物**®のひとつです

日本で自然に生えている植物ではありません。
駆除・保管・運搬等してはけません。
法律で決まっています。罰金刑になることも・・・

ほんのりよく
繁殖力がとても強い

この地域に本来あった草花（オオアザミ）が駆逐して代わられます。
黄色や赤の花が一変

きれいな花
なので駆除
あるけど・・・

この地域に本来あった生態系がおかしくな
っています。人の手でこれ以上拡げないため

ぼうじょ くじょ
防除（駆除）が必要

花壇で栽培
しないでね

この駆除を
みんなでしよう！

**ぼうじょ くじょ
防除（駆除）にご協力を！**

自宅や道ばたに生えていたら・・・

① ひっこ抜いて

② 乾かして

③ 種が飛ばないようにして

④ 燃えるごみへ

種こから

葉を落とし、3日は日光干し

種が落ちると、そこで芽がでて
しまいます。ごみ袋の密閉性！

開いたお花を
福井県河川国道事務所 北川国勢 0770-56-0706
福井県 宇土国勢事務所 宇土国勢 0770-20-0006
小浜市 鳥居町 環境事務所 0770-53-1111 (内44)

※ 河川環境データベースHP【確定値】

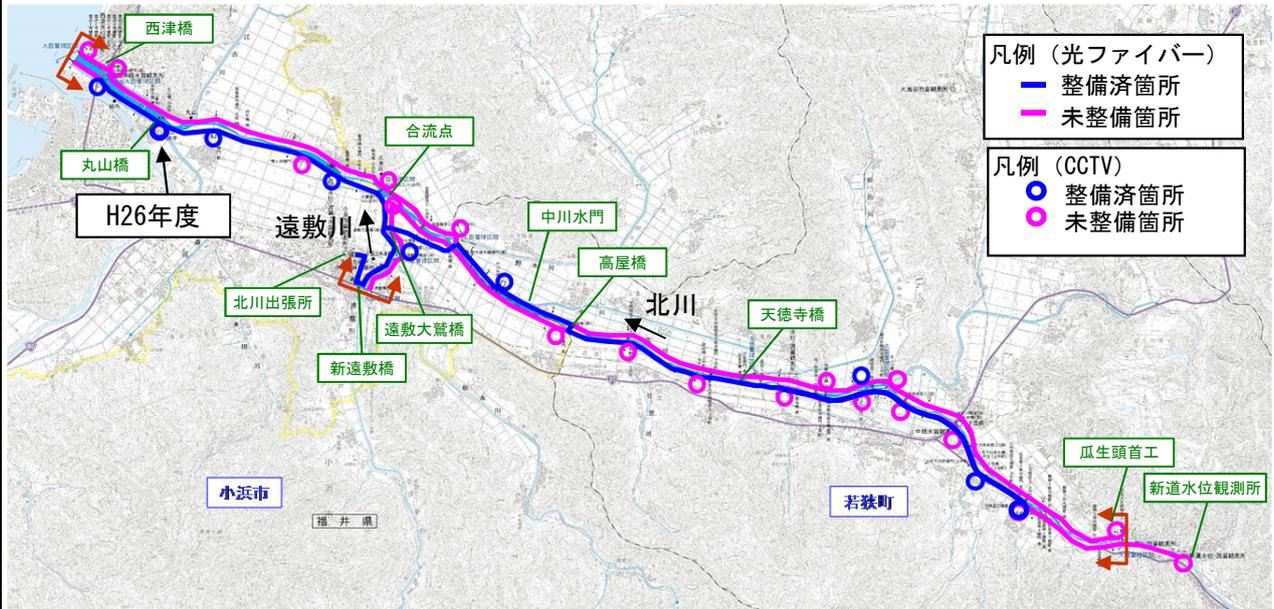
事業進捗点検	No030	整備計画本文との対応（ページ）		整備 目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標 に関する事項	河川の整備の実施 に関する事項		
		P3-4	P4-14	H51まで 継続	毎年
項目	4. 2. 6 危機管理に関する事項 (1) 観測施設の保守点検及び観測機器・通信経路の二重化 (2) ハザードマップの普及・支援 (3) 洪水予報の充実 (5) 水災害の予防・防止				
内容	観測施設の保守点検、機器・通信経路の二重化の実施。 ハザードマップの普及・支援。洪水予報の充実。 庁舎の耐水化（発電機の浸水対策）・耐震化対策。樋門遠隔操作。				
指標	・危機管理に関する施策の実施状況				
点検方法	・危機管理に関する施策の実施状況の確認				

進捗状況	
<p>【点検結果】</p> <p>1. 観測施設の保守点検と観測機器・通信経路の二重化 毎年度、福井管内水文観測所保守点検業務により、雨量、水位観測所の毎月点検及び臨時点検を実施。 対象とする観測所：雨量4観測所、水位4観測所 洪水予報に関わる1種水位観測所（高塚）について、観測機器の二重化は完了（平成9年度）。</p> <p>2. ハザードマップの普及・支援 平成29年3月末現在の国管理区間沿川1市1町（小浜市、若狭町）について、ハザードマップは策定済みであり、平成28年6月に浸水想定区域図の見直しを行い、ハザードマップも見直していく方針であり、作成にあたっては積極的な技術的支援を行う。</p> <p>3. 洪水予報の充実 平成28年度は、洪水予報基準に達する洪水がなかった。現在の洪水予測システムやリアルタイムはん濫予測システムなどの予測精度向上を進め、福井地方气象台と連携し、洪水予警報等を的確に行っていく。なお、福井河川国道事務所の風水害体制は、注意体制6回、第1警戒体制4回であった。</p> <p>4. 住民への情報提供 インターネットにより、雨量、水位、水質、ダム情報、洪水予報、水防警報、ダム放流通知や河川情報としてライブ映像について、リアルタイムで発信し、洪水時、異常濁水や水質事故等が発生時等には福井県、報道機関への映像提供を行っている。 ・川の防災情報 http://www.river.go.jp/ ・福井県河川・砂防総合情報 http://ame.pref.fukui.jp/ ・九頭竜川・北川 河川ライブ映像 http://www.kkr.ml.it.go.jp/fukui/kasen/cctv/index.html</p> <p>5. 庁舎の耐水化・耐震化 北川出張所の耐水化・耐震化はH20年度完了。福井河川国道事務所については耐水化がH18年度に完了し、耐震化対策をH26年度より実施しH28年度に完了予定。</p> <p>6. 樋門遠隔操作 樋門遠隔操作については3箇所（三味線堀樋門、中川樋門、平井川樋門）で計画されているものの、平成28年度では未実施であり、実施に向けて、今後準備を進めていく。</p> <p>【点検結果の考察】 観測機器・通信経路の二重化については、今後未実施区間の整備を進める。 今後樋門遠隔操作に向けて個々のハード・ソフトの整備を進める。</p>	

事業進捗点検	No031	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
				P3-4	P4-14
項目	4. 2. 6 危機管理に関する事項 (4) 住民への情報提供				
内容	流域内の洪水時における河川情報や現地映像を迅速、的確に収集するため、光ファイバーケーブルを延伸し、河川管理用カメラを増設。				
指標	<ul style="list-style-type: none"> 光ファイバーケーブルの整備状況（整備延長） CCTV整備の進捗状況（率・箇所） 				
点検方法	<ul style="list-style-type: none"> 光ファイバーケーブルの整備状況（整備延長）の確認 CCTV整備の進捗状況（率・箇所）の確認 				

進捗状況

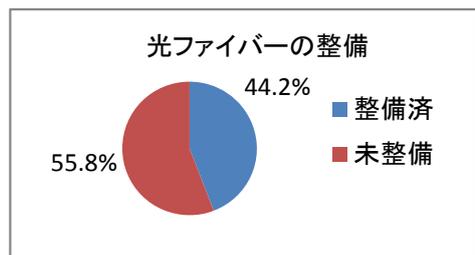
【点検結果】



○光ファイバーケーブルの整備

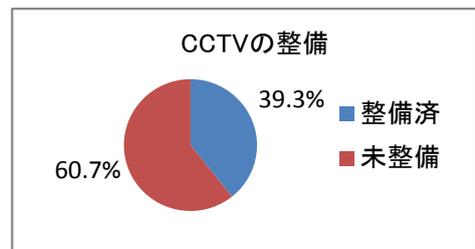
H15年度より左岸においては西津橋～遠敷川合流点を整備し（H15年度）、遠敷川左岸においては北川合流点～管理区間終点を整備した（H15年度）。また、遠敷大鷲橋～中川水門、遠敷橋梁付近～北川出張所を整備した（H15年度）。さらに、右岸において中川水門～七屋橋を、左岸において七屋橋～天徳寺橋を整備した（H22年度）。

今後は、左岸の新道水位観測所までの残りの区間と、右岸の瓜生頭首工までの区間において整備の必要がある。北川および遠敷川の国管理区間に関する計画延長34.4kmのうち、整備延長は15.2kmであり、整備率としては44.2%である。【H28年度末】



○CCTVの整備

計画設置箇所28のうち、11箇所について整備済みである。整備率としては39.3%である。【H28年度末】

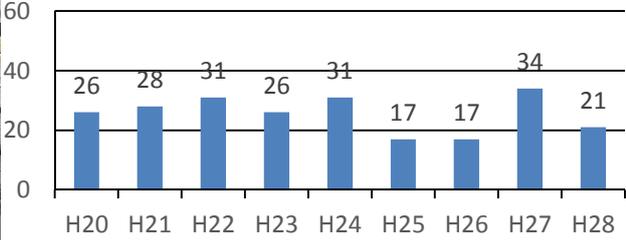


【点検結果の考察】

光ファイバーについては、北川において片岸のみの整備となっており、1本の光ケーブル内でループを構築しているため、ケーブルの切断により通信不通となる。河川管理に必要な整備状況に至っていないことから、計画的に整備を進めていく必要がある。

CCTVについては、浸水想定区域内の地区で必要となる洪水情報を収集するため、増強が必要である。重要水防箇所については、機器・通信経路・電源の二重化の必要性を検討する必要がある。

事業進捗点検	No032	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		P3-8	P4-15	H51まで継続	毎年
項目	4. 3. 1 河川に関する学習				
内容	防災・環境・事業展開等の出前講座を実施。「河川愛護月間」や「水生生物調査」などを通じて、河川事業や河川環境の啓発活動を実施。				
指標	・出前講座や啓発活動の実施状況				
点検方法	・出前講座や啓発活動の実施状況の確認				

進捗状況																					
<p>【点検結果】</p> <p>1. 出前講座の実施状況 実績なし。</p> <p>2. 水生生物調査の実施状況 「水生生物で知る川の健康 川の素顔・命の水」と題して調査を実施。 平成28年度には8月3日に実施し、21名の参加があった。 毎年多くの参加者があり、北川の河川環境を知っていただく良い機会となっている。</p>																					
水生生物調査の実施状況																					
	<p style="text-align: center;">参加者数</p>  <table border="1"> <caption>参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H20</td><td>26</td></tr> <tr><td>H21</td><td>28</td></tr> <tr><td>H22</td><td>31</td></tr> <tr><td>H23</td><td>26</td></tr> <tr><td>H24</td><td>31</td></tr> <tr><td>H25</td><td>17</td></tr> <tr><td>H26</td><td>17</td></tr> <tr><td>H27</td><td>34</td></tr> <tr><td>H28</td><td>21</td></tr> </tbody> </table>	年度	参加者数	H20	26	H21	28	H22	31	H23	26	H24	31	H25	17	H26	17	H27	34	H28	21
年度	参加者数																				
H20	26																				
H21	28																				
H22	31																				
H23	26																				
H24	31																				
H25	17																				
H26	17																				
H27	34																				
H28	21																				
<p>3. 防災コンテスト、防災補助教材 平成28年度、福井豪雨から10年を契機とした啓発活動の一環として、県内の小学生とその家族を対象に、防災コンテストを開催した。 また、防災補助教材を制作し、県内全小学校や図書館に配布し、各種イベントや自治体の出前授業などで活用して頂いた。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>コンテストちらし</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>コンテスト最優秀作品</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>防災補助教材</p>  </div> </div>																				
<p>【点検結果の考察】</p> <p>水生生物調査については、引き続き継続し河川環境の啓発を行う。 平成28年度に取り組んだ「福井豪雨から10年を契機とした啓発活動」について、防災コンテストを引き続き実施する。</p>																					

事業進捗点検	No033	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
		—	P4-15	H51まで継続	毎年
項目	4. 3. 2 河川工事における配慮				
内容	定期的な水質調査、河川水辺の国勢調査等による周辺の動植物生息状況等の調査を実施。河川工事において濁水等の発生に配慮して、河川環境への影響を軽減。				
指標	・環境に関する調査状況や河川工事における環境面からの対応状況				
点検方法	・水質調査、河川水辺の国勢調査等の実施状況 ・河川工事における環境面からの対応状況				

進捗状況

【点検結果】

1. 水質調査・生物調査

水質調査結果については個表No. 27に示したとおりである。

生物の生息状況等については、河川水辺の国勢調査により、「魚類調査」、「底生動物調査」、「植物調査」、「鳥類調査」、「両生類・爬虫類・哺乳類調査」、「陸上昆虫類等調査」の6項目の生物調査と、植生図と瀬・淵や水際部の状況等を調査する「河川環境基図作成調査」を行っている。

近年の調査結果については、「4. 2. 5 河川環境に関する事項」個表No. 28-29に示している。

2. 河川工事に際しての配慮

河道内樹木を伐採する工事については、事前に日本野鳥の会と協議し、工事実施時期等についてアドバイスを頂き適切に工事へ反映している。また、濁水が発生する工事については、漁業関係者等へ濁水対策等の工法について説明し、問題の無いことを確認した上で適切に対策を講じている。



汚濁防止フェンスの設置状況（平成25年12月）

【点検結果の考察】

水質調査や、水辺の国勢調査については計画に基づき概ね適切に実施できている。また、河川工事に伴う周辺環境への悪影響についても現在のところ確認はされていない。

但し、今後も整備計画に基づき河川工事を継続実施する必要があることから、引き続き河川環境調査を実施するものとし、更にはその結果を適切に工事に反映できるように関係機関、学識経験者等と連携をとりながら事業を実施していくものとする。

事業進捗点検	No034	整備計画本文との対応（ページ）		整備 目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標 に関する事項	河川の整備の実施 に関する事項		
		—	P4-15	H51まで 継続	毎年
項目	4. 3. 3 モニタリング				
内容	河川事業が自然環境に与える影響を評価するため、「河川水辺の国勢調査」等の環境モニタリングを継続的に実施。 モニタリング結果等の環境情報については、ホームページ等で公表。住民等が情報を収集しやすい環境を整備。				
指標	・モニタリングの実施と公表状況				
点検方法	・実施状況の確認				

進捗状況	
<p>【点検結果】</p> <p>1. モニタリングの実施 河川環境に関するモニタリングについては、河川水辺の国勢調査により、「魚類調査」、「底生動物調査」、「植物調査」、「鳥類調査」、「両生類・爬虫類・哺乳類調査」、「陸上昆虫類等調査」の6項目の生物調査と、植生図と瀬・淵や水際部の状況等を調査する「河川環境基図作成調査」を行っている。 近年の調査結果については、「4.2.5 河川環境に関する事項」個表No. 28-29に示している。</p> <p>2. 環境情報の公表 河川水辺の国勢調査については、「河川環境データベース」として国土交通省ホームページを通じて公表している。 http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/index.html</p> <p>【点検結果の考察】 水辺の国勢調査については継続実施しデータ収集する必要がある。また、得られたデータから河川事業が環境へ及ぼす影響を検証し事業に反映させる必要がある。</p>	

事業進捗点検	No035	整備計画本文との対応（ページ）		整備目標年	点検頻度
		河川整備計画の目標に関する事項	河川の整備の実施に関する事項		
			P3-10	P4-15	H51まで継続
項目	4. 3. 4 地域住民、関係機関との連携				
内容	地域住民と連携した河川整備の実施。河川管理者と住民等との協働による維持管理。河川愛護モニター・地域住民等からの情報収集とそれらを活かす環境整備。河川環境に関する普及啓発の実施。関係機関と連携した諸課題への取り組み。				
指標	<ul style="list-style-type: none"> ・住民等との連携による河川整備、河川管理の実施状況 ・河川環境に関する普及啓発の実施状況 				
点検方法	<ul style="list-style-type: none"> ・住民等との連携による河川整備、維持管理の実施状況の確認 ・河川愛護モニター・地域住民との連携による活動状況の確認 ・河川環境に関する啓発活動の実施状況の確認 				

進捗状況	
<p>【点検結果】</p> <p>1. 住民等と連携した河川整備、維持管理の実施 地域住民が実施する河川清掃活動には、ゴミ袋の配布及び用具の貸与を実施。 河川整備、維持管理による工事等には、丁寧に説明すると共に地域住民の声を拝聴し実施。</p> <p>2. 地域住民や住民団体との情報連携体制づくり 河川愛護モニターから、水質、河川利用、河川環境などに関して情報収集を実施し、地域との連携を深めている。 H28年度には2名のモニターが活動しており、定期報告を24回（12回×2名）受けている。 主な報告内容は、河川利用状況、地域住民と河川との関わり等についてである。 河川工事を行う際は、河川環境モニター及び関係機関等と河川環境への負荷やその対策等について意見交換し工事に反映している。</p> <p>3. 河川と流域社会の関わり 北川に繁殖する特定外来生物（オオキンケイギク）の防除（駆除）にあたっては、地元の小浜市、若狭町と連携し防除（駆除）チラシの配布や地元ケーブルテレビなどを通じて啓発活動を行った。 詳細については4. 2. 5河川環境に関する事項を参照。</p> <p>4. 関係機関との連携 上記3. 河川と流域社会の関わりと同様</p> <p>【点検結果の考察】 地域と連携した河川環境に関する啓発活動などは引き続き実施していくものとする。 河川愛護モニターについては、モニター間の意見交換会などが出来るように努めるものとし、地域住民や住民団体との情報連携体制の強化を図る。 住民と連携した河川整備、維持管理などは今後、実施に向けて検討・準備を進める。</p>	